

# 兵庫県保険医協会 但馬支部ニュース

No.143

2014年8月25日発行

発行 兵庫県保険医協会但馬支部  
連絡先 〒668-0373 豊岡市但東町久畑1 2 6  
高橋診療所 TEL/0796-55-0036 FAX/0796-55-0008

但馬支部第28回総会記念講演

## 「救急医療は地場産業」

～但馬救命救急センターの取り組み、そしてこれから～



会員、看護師、消防士ら30人が参加した

但馬支部は7月13日に第28回支部総会を但馬長寿の郷で開催し、2014年度活動方針を採択した。また、支部長代行に谷垣正人先生（日高町）を選出した（3～4面参照）。

記念講演では、「救急医療は地場産業～但馬救命救急センターの取り組み、そしてこれから」をテーマに公立豊岡病院但馬救命救急センター長：小林誠人先生が記念講演し、医師、看護師、消防士ら30人が参加した。参加者の感想文を紹介する。

（2面につづく）

（1面からつづく）

感 想 文

## 地域と連携した「チーム医療」が患者を救う

7月13日に但馬支部総会を開催し、公立豊岡病院但馬救命救急センター長の小林誠人先生に記念講演を頂いた。同センターはドクターヘリ・ドクターカーの運用実績では全国有数の施設であります。

ご講演の最初に但馬地域救急医療の特殊性を説明頂きました。但馬地域は東京都と同面積であるが全次型救命救急センターは一つ、二次救急センターが一つ、重急性期&慢性期の公立病院が七つあるのみ。この特殊性もあり、公立豊岡病院但馬救命救急センターでは一次救急から三次救急まで受け入れる北米型ERの形態を取っているが、豊岡病院救急センターでは更に手術や内視鏡的治療・ICU管理を含めかなりの程度は救急センター内で完結する治療を目指す全国的にもユニークな方針を取っていると説明頂きました。

次に公立豊岡病院但馬救命救急センターのユニークな特徴である「病院前救急診療—ドクターヘリ・ドクターカー事業」について説明を頂きました。公立豊岡病院但馬救命救急センターへ導入されたドクターヘリは国内で22機目ですが、一日当たりの稼働件数は日本一だそうです。私は毎週所用で豊岡病院へ行きますが、二回に一回はドクターヘリが飛び立っているようです。想像以上の出勤回数との印象を持ちます。ドクターヘリ・ドクターカー導入の目的は言わずもがな治療開始時間の短縮です。但馬では（全国どこも同じと思われるが）離発着場所が限られているため、離発着場所で救急車とランデブーし治療を開始しながら患者を搬送するそうです。公立豊岡病院但馬救命救急センターの病院前外傷診療開始時間は同様の病院前救急診療を行っている救急救命センターの全国平均をはるかに凌駕しているそうです。これが但馬地域の地域救命率向上として表れていると説明されました。

次に公立豊岡病院但馬救命救急センター設立以後の救急患者の予後・生存率の向上

（3面につづく）



公立豊岡病院但馬救命救急センター長 小林誠人先生

（2面からつづく）

について説明頂きました。敗血症・敗血症性ショック診療の予後向上や外傷診療の生存率向上について説明があり、また脳梗塞・クモ膜下出血・急性心筋梗塞・第三度熱傷について早期医療介入の効果についてスライドで紹介頂きました。

最後に小林先生は、救急医療は地域の特殊性に応じてシステム・体制を考えていく「地場産業」であり、多機関・多職種と連携した「チーム医療」が地域住民の安心・安全に寄与すると強調されました。

支部総会当日は日曜日でありましたが、小林先生は職場から抜け出してお話を頂き、講演終了後はまた診療に戻られる状況でした。あわただしい中でお話を頂いた小林先生には大変感謝しております。

また当日は、日頃から寄付を通じて但馬救命救急センターの援助を続けておられる国際ソロプチミスト但馬の会員の方々も多数聞きに来られており、盛況の講演会でした。

【香美町 下山 均】

## 兵庫県保険医協会但馬支部役員

（2014年8月現在・医科歯科地区別・五十音順・敬称略）

### ■支部役員

<支部長>

新田 誠（豊岡市）

<支部長代行>

谷垣 正人（豊岡市） 新

<副支部長>

下山 均（香美町）

<幹事>

森 和夫（養父市）

坂本 健一（朝来市）

馬庭 幸二（朝来市）

野田 昌男（豊岡市）

長谷川正宜（豊岡市）

藤井 高雄（豊岡市）

吉田 仁志（豊岡市）

古澤 倫代（美方郡）

山田 真義（美方郡・歯科）

由良 徹也（豊岡市・歯科）

<顧問>

谷 尚（養父市）

### ■協会役員

<理事> 3人

谷垣 正人（豊岡市）

新田 誠（豊岡市）

藤井 高雄（豊岡市）

<評議員> 2人

下山 均（香美町）

古澤 倫代（新温泉町）

<予備評議員> 1人

吉田 仁志（豊岡市）

## 2013 年度活動報告

- 1、協会各支部が協力する聴覚障害者の医療を考える会(略称：いのちを考える会)が学習会を開催(7/7)。「生活習慣病を予防するために」をテーマに、谷垣正人副支部長が講演し、市民ら25人が参加した。
- 2、第27回支部総会記念講演(13/07/21)では、柏原日赤病院院長・片山覚先生を講師に「ネット時代の医療情報共有～柏原赤十字病院での地域医療連携の取り組み」を行い、会員、看護師、病院事務長ら29人が参加した。また、支部幹事に山田真義先生(美方郡・歯科)を新たに選出した。
- 3、シリーズ企画「他科を知る会」を公立豊岡病院、公立日高医療センターで3回(13/08/24・11/28・14/05/29)開催、会員や勤務医ら延べ35人が参加した。アドバイザーの同病院顧問：芦田一彌先生や公立豊岡病院皮膚科：秋山創先生より、整形外科、皮膚科領域の多数の症例を検討した。参加された先生方から「日常診療に役に立つ」と好評を得ている。
- 4、豊岡市医師会と共催で「ORCAフェア」を開催(13/08/25)、会員ら7人が参加。豊岡市医師会会長：舟木宏先生、高石俊一先生(豊岡市)、日医総研：秋元宏氏が話題提供した。
- 5、会員懇談会「どうなる？これからの地域医療」(講師：佐久総合病院[長野県]色平哲郎先生)を開催(13/10/5)、会員ら12人が参加した。今後の地域医療について、開業医、但馬地域の病院長、研修医らが活発に意見交換を行った。
- 6、協会診内研のネットを利用した同時中継を但馬で2回開催(13/11/9、14/03/08)、会員9人が参加した。
- 7、第2回医院経営研究会「医事紛争を避けるために」(講師：鶴飼万貴子弁護士)をテーマに開催、会員ら14人が参加した(13/11/09)。
- 8、「公費負担医療の手引き」学習会を開催(13/12/01)。下山均副支部長を講師に会員ら13人が参加した。
- 9、医科歯科新点数Q&A研究会を開催(4/27医科、4/29歯科)、会員ら31人が参加した。
- 10、職員接遇研修会をマネジメントコンサルタントの松田幸子先生を講師に開催、スタッフら18人が参加した。
- 11、勤務医未入会員対策として、但馬地域の12の公立私立病院院長宛に新田誠支部長より紹介状を得て、全病院を訪問。医局での資料配布など勤務医対策に取り組んだ。
- 12、公立豊岡病院と共催で勤務医向け「ライフプランセミナー」を開催、同病院若手医師、研修医ら18人が参加、同病院勤務医の入会を得た。
- 13、『2013年病医院医師名簿』を発行し、但馬地域に隣接する病院を含む全21病院を掲載、会員から要望のあった高齢者施設一覧も掲載した。但馬地域の病院・医院からは、「病診連携に役に立つ」と好評を得ている。
- 14、但馬地域2市2町(豊岡市、朝来市、香美町、新温泉町)への自治体キャラバン(県社保協主催)に参加。医療・介護・福祉の充実を各市町へ訴えた。
- 15、支部ニュースを8回発行し、活動の報道を行った。
- 16、支部幹事会は8回開催、研究会等の企画立案を行なった。

## 2014 年度活動方針

- 1、病診連携を深める取り組みとして「他科を知る会」(整形外科領域)をシリーズ企画で開催する。また、皮膚科領域、医科歯科連携をテーマに開催する。
- 2、歯科会員のニーズに応える企画を開催する。また、審査問題など医科歯科一体の企画を定例化する。
- 3、「地域医療を考える懇談会」など、医療・保健・福祉の連携を強める機会を設ける。
- 4、審査指導対策、労務問題、パソコンなど医院の運営に役立つテーマを取り上げ、「会員懇談会」を開催する。
- 5、医院経営研究会を年一回の定例企画として開催する。
- 6、診療現場を会場に、開業医がお互いに経験を気軽に交流できる場として「日常診療勉強会」を開催する。
- 7、幹事による会員訪問を行い、支部ニュース「但馬の息吹」欄で紹介していく。
- 8、開業情報をすばやく入手して新規開業医の100%入会を目指す。また、病院訪問とともに開業医と勤務医が一堂に集える企画を開催し、勤務医に入会を訴える。
- 9、市民公開企画を開催し、地域住民や市民団体との連携を強める。
- 10、協会研究部が主催する臨床研究会の同時中継を但馬地域で開催する。
- 11、支部ニュースの定期発行を目指し、親しみやすい紙面づくりを工夫する。
- 12、魅力ある幹事会運営に務め、若手会員の支部行事への参加を促進させる。
- 13、10月開催予定(10/4～5)の移動理事会、地域医療を考える懇談会を成功させる。
- 14、家族や従業員が気軽に参加できるような場をつくり、互いの交流を促進させる。
- 15、文化的な企画を積極的に取り入れ、環境・人にやさしい支部活動をめざす。